

婦人関係資料シリーズ
調査資料NO.26

李 晋 84.95. 王 力 84.95.
王 力 84.95. 王 力 84.95.
王 力 84.95. 王 力 84.95.

協同活動についての調査



労働省婦人少年局

は し が き

労働省では去る4月、第10回婦人週間を主唱するに当つて、“婦人の協同活動”を週間のテーマとしてとり上げ、“正しい協同活動をおして婦人の力を役立たせる”ことを目標として運動をすすめましたが、婦人少年局ではその際、婦人の協同活動の実情を把握する目的で、全国的な調査を企画し、週間に先立つ2月にこれを実施しました。調査結果のあらましは、婦人週間用資料として既に発表済みですが、この報告書ではより詳細にわたつて結果をとりまとめました。婦人の協同活動の推進のために努力されている方々にとつてこの資料が御参考になれば幸に存じます。

この調査では、調査対象を全国抽出によつてえらびましたが、その際とくに統計数理研究所（国立）の御協力をいただきました。ここに厚く御礼を申し上げます。

昭和33年7月

労働省婦人少年局

目 次

は し が き

調 査 の 概 要	1
調査結果のあらまし	2
調 査 の 結 果	6
Ⅰ 調査対象者について	7
1. 統 柄	7
2. 年 令	7
3. 学 歴	8
4. 職 業	8
5. 子供の数	9
Ⅱ 団体への加入状況	11
1. 団体加入率と加入者の分布	11
2. 団体種類別加入状況	14
(1) 地 域 団 体	14
(2) 有 志 団 体	15
(3) 職域・職能団体	16
(4) 重 複 加 入	17
3. グループへの参加状況	18
Ⅲ 組織活動への参加状況	19
1. 役 員	19
2. 会のことででかける回数	20
3. 会からの通知の回数	21
Ⅳ 協同活動についての意識	22
1. 団体に入つたきっかけ	22
2. 団体に入らない理由	22
3. 団体加入をすすめられたときの態度	23
4. 婦人団体での仕事のしかたについて	25
5. 地域における実践への関心	26
6. 婦人週間について	28

統 計 表 目 次

第 1 表	統 柄	7
第 2 表	年 令	7
第 3 表	学 歴(年令別)	8
第 4 表	職 業	9
第 5 表	子供の数(年令別)	9
第 6 表	学令に達しない子供の数	10
第 7 表	団体への加入状況	11
第 8 表	団体加入の有無(統柄別、年令別、学歴別、職業別、未既婚別)	12
第 9 表	地域団体への加入状況	14
第 10 表	団体別加入状況(統柄別、年令別、学歴別、職業別)	16
第 11 表	有志団体への加入状況	16
第 12 表	職域、職能団体への加入状況	16
第 13 表	重複加入の状況	17
第 14 表	グループへの参加状況	18
第 15 表	団体及びグループへの参加状況	18
第 16 表	役についているか(年令別、学歴別)	19
第 17 表	会のことででかける回数	20
第 18 表	会からの通知の回数	21
第 19 表	団体に入つたきっかけ(団体別)	22
第 20 表	団体に入らない理由(年令別、学歴別)	23
第 21 表	団体加入をすすめられたときの態度(年令別、学歴別、職業別)	24
第 22 表	婦人団体の仕事のしかたについて(年令別、学歴別、団体加入の有無別)	26
第 23 表	地域の協同活動について(年令別、学歴別)	27
第 24 表	婦人週間を知っているか(年令別、学歴別、団体加入の有無別)	28
第 25 表	婦人週間を知った経路	29

目 次

第 1 図	団体加入者の統括別構成	12
第 2 図	統括別団体加入率	12
第 3 図	団体加入者の職業別構成	13
第 4 図	職業別団体加入率	13
第 5 図	各種団体加入者の団体加入者全体に対する割合	15
第 6 図	重複加入の割合	17
第 7 図	団体役員の学歴別構成	20
第 8 図	婦人会に入ったきっかけ	22
第 9 図	団体加入をすすめられたときの態度	25
第 10 図	家の人から団体加入をすすめられたときの態度(統括別)	25

調 査 の 概 要

1. 調 査 の 目 的

“婦人の協同活動の育成”を目標として第10回婦人週間を実施するに当り、婦人の協同活動の現状並びに協同活動についての婦人の意識を把握して、今後の協同活動の推進に役立てる目的で、この調査を行った。

2. 調査の対象者

20才以上の女子2,000名(全国) 但し、回収数1,933名

3. 調査対象者のえらび方

全国の20才以上の女子人口のうちから、2,000名をえらび出すため、次の方法によつて、地点及び個人の抽出を行った。

α) 調査地点の選定

層別無作為抽出によつて、全国から50の市区町村を選定した。即ち、全国の市区町村を地方(北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州)に層別をし、各層(各地方)ごとに市区町村をえらんだ。そのえらび方は、各市区町村の人口に比例するウエイトを与えて、等間隔サンプリングによつた。(参考地点表参照)

β) 個人の抽出

調査地点にえらばれた各市区町村の投票区の中から、人口比例法によつて1投票区を無作為に抽出し、その投票区の女子有権者の中から40名ずつを等間隔サンプリングによつてえらび出し、調査の対象者とした。

4. 調査の方法 面接法

5. 調査期日 昭和33年2月

調査結果のあらまし

1. 団体への加入状況

この調査の結果では、婦人の団体加入率は63%である。市部、郡部別では、郡部の方に加入率が高い。また性別では“妻”の加入がもつとも多く、年齢では40才台を最盛としてその前後の層に、学歴では高等小学校、旧高女程度の間層に、加入者が多く、職業別では、農林漁業従事者の加入率がとくに高い。また、既婚者は未婚者より加入率が高い。

団体を、地域団体、有志団体、職域・職能団体の三つのグループに分けて、別々に加入率をみると、地域団体へは全対象者の57%が加入しているが、有志団体と職域・職能団体へはそれぞれ6%が加入しているだけである。地域団体と有志団体の加入者は市部より郡部に多いが、職域・職能団体は市部に多い。

これら三つのグループに属する団体の主なものを挙げると、地域団体では、婦人会、PTA、農協婦人部、及び町内会婦人部に加入者が集中しており、婦人会加入者は全対象者の88%（市部30%、郡部47%）、PTAは32%（市部、郡部は同じ）、農協婦人部10%（市部5%、郡部15%）、町内会婦人部7%（市部5%、郡部10%）となっている。有志団体については、市部でも郡部でも、未亡人団体と各種の宗教団体の加入者がもつとも多く、とくに郡部では、有志団体加入者全体の約80%がこのような団体に所属している。職域・職能団体については、市部では労働組合の加入者が大部分であるが、郡部では、むしろ同業者団体の方が多い。

これら三つのグループの間では加入者の層も異っており、地域団体では“妻”と“嫁”に加入者が多いが、有志団体では“世帯主本人”“母”などの加入率が高く、また、職域・職能団体では“世帯主本人”と“娘”が多い。年齢では、地域団体は30才台～50才台、有志団体は40才台以上、職域・職能団体は20才台が多く入っている。学歴別でみると、地域団体ではおおむね学歴の間層に加入者が多く、又職域・職能団体では学歴の高いほど加入率が高いが、有志団体では学歴による差は比較的少ない。職業別では、地域団体（但し町内会婦人部を除く）では自営と家族従業の農林漁業従事者に、有志団体では、自営の農林漁業従事者に、職域・職能団体では、自営者のうちのサービス業と自由業、及び雇用者に加入者が多い。

いわゆるグループ等の小集団に加入するものは全対象者の13%で、その8割までが団体加入者である。郡部、市部ともに、“たのもし講”“無尽”等の加入者が比較的多く、そのほか市部では、手芸、茶道、華道の集り、読書会など、郡部では、生活改善グループ、念仏講などの仏教関係の集りが多い。

2. 団体活動への参加状況

（役員）

団体加入者全体の22%が、役員が世話役になっている。二つ以上の団体に役員をしているものはあまり

ない。年齢別では、市部では30才台、40才台に、郡部では40才台、50才台に役についているものが多い。学歴別では旧高女以上の学歴のものに多い。職業と、役につくこととはほとんど関係がない。

（出かける回数）

団体のことでどの位でかけるかをきいた結果は、団体加入者の30%が月1、2回程度でかけ、10%が月3回以上、40%が月1回未満で、14%が全くでかけない。役についているものは、ついていないものより、当然出かける回数が多い。そして、郡部のものは、市部のものよりよくでかける。また、年齢では20才台から40才台、職業では農林漁業に従事するものがよくでかけ、でかけることの少ないのは、50才以上、小学校卒業以下、内職者、非農林漁業の家族従業者である。

3. 協同活動についての意識

（団体に入つたきっかけ）

どんなきっかけで団体に入つたかをきいたところ、地域的な団体の場合は、60～70%が“みんな入ることになっているから”といい、“自分からすすんで”入つたものは10%前後で少い。“みんな入ることになっているから”というものは、市部より郡部に多く、“自分からすすんで”というものは市部にやや多い。また、有志団体の場合でも、“自分からすすんで”入つたものより“すすめられたから”入つたというもののほうが多い。

（団体に入らない理由）

団体に入っていないものに、どうして入らないかをきいた結果は、“ひまがない”というものが、市部、郡部を通じて、殆どどの年齢層や学歴層にも、また幼児のあるものにもないものにも、共通して一番多いが、とくに40才台、30才台のものや幼児のあるものに多く、また学歴は高いほどこの理由が多い。“すすめられたことがないから”というのが二番目に多い理由であるが、これは若いものほど多い。

（団体加入の自主性）

気がすまないのに団体に入ることをすすめられたときどうするかということを、親しい人からすすめられた場合、家の人からの場合、名前だけでもと頼まれたとき、と三つの場合についてきいたところ、どの場合も含めて、市部ではおよそ20～30%が、郡部では30～40%が、“入る”と答えている。そして、市部でも郡部でも、“家の人から”すすめられた場合に“はい”ものが一番多い。とくに、農林漁業従事者と“嫁”は、“家の人から”すすめられれば“はい”というものが格別に多い。

（会員としての役割意識）

次に、婦人団体の仕事のしかたについて、会員一人一人が仕事をうけもつやり方と、役員が決めさせるや

4

り方とをくらべて、どちらがよいと思うかをきいた。その結果は、“会員一人一人がする”に賛成のものが約50%、“役員だけ”に賛成が26%で、“一がいにいけない”が11%、“分らない”が13%で、市部、郡部別ではほとんど差がない。“会員一人一人がする”やり方に賛成したものは、若いものほど、また学歴の高いものほど多く、団体に加入しているものは加入していないものより、その意見のものが多い。また、団体に入っていないものは“わからない”といったものが多かった。

（地域における実践への関心）

地域の問題で婦人同志が何とかしたらよいと思っていることがあるか、と質問したのに対して、“ある”と答えたものは、市部20%、郡部30%であつた。団体に加入しているものは、していないものより、“ある”といったものがずつと多かった。

具体的に、どんな問題がとりあげられているかをみると、“婦人の教養を高めるための集りをもつこと”“町の清掃や環境衛生の改善”“子供の遊び場や託児施設の設置”などが市部、郡部に共通して多くみられ、そのほか市部では、“生活困窮者の救済”“道路の整備、水はけ、下水などのこと”を問題にするものが多く、また郡部では、“生活改善、冠婚葬祭の簡素化”をあげたものが目立つて多かった。

調 査 の 結 果

I 調査対象者について

1. 続 柄

調査対象者1,933人について続柄の分布をみると、第1表のようである。すなわち、“妻”が66%で大半を占めており、“娘”“母”及び“世帯主本人”はそれぞれ10%内外、“嫁”“姉妹”はいずれも5%以下である。市部、郡部別ではほとんど差がないが、ただ“嫁”は市部に2%、郡部に7%で、郡部の方に多くなっている。

第1表 続 柄

	総 数		本 人	妻	娘	母	嫁	姉 妹	その他
	実 数	%							
計	1,933	100%	7%	66%	12%	8%	4%	2%	2%
市 部	999	100	8	68	11	7	2	2	2
郡 部	934	100	6	64	12	8	7	1	2

2. 年 令

次に年令の分布を第2表によつてみると、30才台がもつとも多く、30%近くを占め、次いで20才台、40才台、50才台、60才以上の順となつており、60才以上は約10%である。市部と郡部はほとんど一致している。

第2表 年 令

	総 数		20才台	30才台	40才台	50才台	60才以上
	実 数	%					
計	1,933	100%	24%	28%	22%	16%	11%
市 部	999	100	24	28	21	16	11
郡 部	934	100	24	27	22	16	11

なおこの調査を次表の昭和30年国勢調査における20才以上の女子人口の年令分布に比較してみると、20才台と60才以上の層が、この調査では国勢調査より少くなっている。ことに、市部では20才台が、郡部では60才以上が少い。この調査の対象者は中年の層に多少かたよつていとみるべきであろう。

(国勢調査による年令分布)

	総 数	20才台	30才台	40才台	50才台	60才～
計	100%	30%	28%	18%	13%	11%
市 部	100	32	24	18	13	13
郡 部	100	28	22	18	14	17

(昭和30年国勢調査(昭和30年統計資料より作成))

3. 学 歴

調査対象者全体でみると、高小・新中卒が一番多く44%、次が旧高女・新制高校卒で28%、小卒が24%、旧専門学校以上は2%で少い。しかし、市部と郡部では可成相違があり、市部では、高小・新中と旧高女・新高の二つの層がほぼ同じ位で、それぞれ40%近くを占め、小卒以下は約20%である。これに対して郡部では、高小・新中層が約50%、小卒以下が約30%、旧高女・新高卒は20%となっており、郡部は市部にくらべて学歴が相当に低い。

しかし、学歴層の分布は、市部でも郡部でも、年齢層によつて非常にちがっており、若い年齢層ほど小卒が少く、旧高女・新高卒がふえている。ことに郡部では、年齢層の間の学歴のひらきは顕著である。(第3表)

第3表 学 歴 (年齢別)

		総 数	学 歴 (年齢別)				
			小卒以下	高小、新中	旧高女、新高	旧専、大学	そ の 他
計	計	(1,933) 100%	24%	44%	28%	2%	2%
	20才台	(462) 100	4	51	42	2	2
	30才台	(531) 100	15	43	35	4	3
	40才台	(423) 100	25	46	26	1	1
	50才台	(312) 100	38	44	16	2	1
	60才～	(205) 100	73	21	5	0	0
市 部	計	(999) 100	21	39	37	3	1
	20才台	(242) 100	3	43	49	3	2
	30才台	(279) 100	11	35	48	5	1
	40才台	(214) 100	21	44	33	2	1
	50才台	(158) 100	32	41	23	2	2
	60才～	(106) 100	67	24	9	1	—
郡 部	計	(934) 100	28	48	19	2	2
	20才台	(220) 100	5	59	34	1	2
	30才台	(252) 100	19	53	22	2	5
	40才台	(209) 100	30	49	19	1	2
	50才台	(154) 100	44	46	9	1	1
	60才～	(99) 100	79	18	2	—	1

(註) 比率の0は0.5%未満。* “その他”は、青年学校、看護婦、助産婦養成所、裁縫学校等。

4. 職 業

調査対象者の約50%が“無職”であるが、市部、郡部別では市部に無職のものが多く(市部60%、郡部35%)。有業者について従業上の地位をみると、家族従業者として働くものもつと多く、全体の21%、次いで自営者15%、雇用者11%となっている。家族従業者と自営者は郡部に多く、市部のそれぞれ10%と11%に対し、34%と20%となっているが、郡部のこれら家族従業者と自営者の大部分は農林漁業に従事しており、その割合は郡部対象者全体の43%にあたる。雇用者は市部18%、郡部8%で、市部の方が多い。

また、市部と郡部に内職を営むものが夫々6%程度みられる。(第4表)

第4表 職 業

	総 数	自 営 者				雇用者	家族従業者		内 職	無 職
		農林漁業	商工業	サービス業	自由業		農林漁業	非農林漁業		
計	(1,933) 100%	7%	5%	2%	1%	11%	17%	4%	5%	43%
市 部	(999) 100	2	6	2	1	13	5	5	6	60
郡 部	(934) 100	12	5	2	1	8	31	3	4	35

5. 子 供 の 数

全対象者の89%に当る既婚者のうちの約90%が自分の子供といつしよに暮している。子供の数は1人のものがもつとも多く約30%、次いで2人、3人の順に少くなっている。子供のいないものも含めて2人以下のものが、市部では70%、郡部では50%となっており、既婚者1人当りの平均子供数は、市部2.1人、郡部2.5人である。同居している子供の一番多い年代は、市部、郡部ともに40才台で、この年代での平均子供数は、市部で2.9人、郡部で3.3人であり、同居している子供の一番少ない年代は、市部では60才以上、郡部では20才台となっている。(第5表)

また、学令前の幼児をもつものは、既婚者全体の36%で、そのうち市部では幼児1人をもつものが大半であるが、郡部では2人以上もっているものも多い。(第6表)

第5表 子 供 の 数 * (年齢別)

		既婚者総数		0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人～	不 明	既 婚 者 1人平均 子 供 数
		集 数	%									
計	総 計	1,713	100%	11%	27%	24%	19%	10%	7%	4%	0%	2.3
	20才台	258	100	19	42	30	7	0	2	—	0	1.8
	30才台	511	100	8	17	32	26	10	5	1	0	2.4
	40才台	420	100	6	11	18	26	18	14	8	—	3.1
	50才台	309	100	10	32	15	17	13	8	6	—	2.4
	60才～	205	100	16	56	16	7	2	2	2	—	1.4
市 部	計	884	100	12	29	26	17	8	5	3	0	2.1
	20才台	145	100	23	41	32	4	1	—	—	—	1.8
	30才台	265	100	8	21	38	23	8	2	0	1	2.1
	40才台	211	100	7	12	21	25	16	11	7	—	2.9
	50才台	157	100	13	32	15	17	11	7	5	—	2.2
	60才～	106	100	21	69	14	6	—	1	—	—	1.1
郡 部	計	829	100	8	25	21	21	12	9	5	6	2.5
	20才台	123	100	6	42	29	10	—	3	—	1	1.4
	30才台	246	100	8	18	27	31	12	8	2	—	2.6
	40才台	209	100	4	10	14	27	20	16	9	—	3.3
	50才台	152	100	6	31	15	18	15	8	8	—	2.6
	60才～	99	100	11	53	17	7	5	4	3	—	1.7

* 本人の子供、但し同居するもののみ。

第6表 学令に達しない子供の数*

	既婚者総数		0人	1人	2人	3人～	不明
	実数	%					
計	1,713	100%	64%	21%	12%	2%	1%
市 部	884	100	66	22	10	2	0
郡 部	829	100	62	19	14	3	2

* 本人の子供のみ

Ⅰ 団体への加入状況

1. 団体加入率と加入者の分布

問 あなたは何かの団体に入っていますか？

a. 町(村)の婦人会や青年団とかP. T. A.などのようなこの土地に住む人たちでつくっている団体に入っていますか？

b. そのほか地域に関係なく何かの目的をもつて集まっている団体(たとえば、主婦連、婦人有権者同盟、矯風会、友の会、政党婦人部、未亡人団体のような団体)に入っていますか？

c. また、職場の労働組合や、同じ職業のものの団体(たとえば、看護協会、美容師連合会のようなもの)に入っていますか？

d. そのほかに入っている団体があったら、みんないつて下さい。

以上の質問によって、調査対象者が加入している団体の名前をすべてあげさせ、団体への加入状況をみた。まず、第7表によつて団体への加入率をみると、全対象者の63%が何かの団体に加入しており、市部、郡部別では、市部60%、郡部66%で、郡部の方が加入率がやや高い。これら団体加入者の約半数は二つ以上の団体に加入しているが、その割合も郡部の方が多い(市部25%、郡部36%)。団体加入者1人当りの平均加入団体数は、市部1.5団体、郡部1.8団体である。

第7表 団体への加入状況

	調査対象総数		入っていない	入っている							1人平均加入団体数
	実数	%		小計	1団体	2団体	3団体	4団体	5団体	6団体～	
計	1,933	100	37	63	33	21	7	2	0	0	1.5
市 部	999	100	40	60	36	18	6	1	—	—	1.5
郡 部	934	100	34	66	30	23	9	4	0	0	1.8

* 団体加入者についての平均

団体に加入しているか、いないかを、性別、年令、学歴、職業などの階層別にみると、第8表のようである。

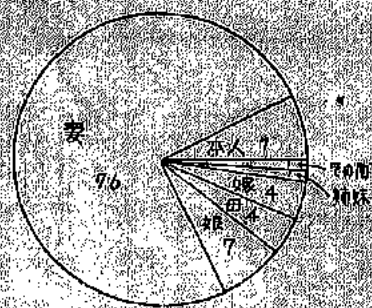
まず、性別では、「妻」の加入率が最も高く、「妻」全体の72%が加入しており(市部69%、郡部76%)、次いで「嫁」は63%が加入し、「母」と「娘」はそれぞれ40%程度で少い。また、団体加入者全体を100%として取っても、「妻」はそのうちの76%を占めていて圧倒的に多い(第1図、第2図参照)。市部、郡部別にみても以上のような傾向は共通である。

第8表 団体加入の有無 (続柄別、年齢別、学歴別、職業別、末既婚別)

			計					市 部					郡 部				
			調査対象者		入っていない	入っている	1人平均加入団体数	調査対象者		入っていない	入っている	1人平均加入団体数	調査対象者		入っていない	入っている	1人平均加入団体数
			実数	%				実数	%				実数	%			
計			1,933	100	37	63	1.7	999	100	40	60	1.5	934	100	34	66	1.8
続柄別	本人	140	100	40	60	2.1	82	100	48	52	1.4	58	100	29	71	1.4	
	妻	1,270	100	28	72	1.7	677	100	31	69	1.5	593	100	24	76	1.7	
	娘	223	100	63	37	1.4	112	100	65	35	1.3	111	100	61	39	2.0	
	母	145	100	51	39	1.6	68	100	57	43	1.5	77	100	68	32	1.0	
	姉妹その他	84	100	37	63	2.0	21	100	48	52	1.9	63	100	33	67	1.4	
年齢別	20才台	30	100	67	33	1.0	17	100	59	41	1.0	13	100	77	23	2.5	
	30才台	41	100	68	32	1.5	22	100	64	36	1.5	19	100	74	26	1.8	
	40才台	462	100	59	41	1.4	242	100	60	40	1.2	220	100	58	42	1.5	
	50才台	531	100	23	77	1.7	279	100	27	73	1.6	252	100	18	82	1.6	
	60才台以上	423	100	19	81	1.9	214	100	24	76	1.7	209	100	14	86	2.0	
学歴別	小学校以下	312	100	32	68	1.6	158	100	36	64	1.4	154	100	28	72	1.6	
	小高小	205	100	70	30	1.4	106	100	63	37	1.4	99	100	77	23	1.3	
	新中	471	100	45	55	1.6	204	100	46	54	1.6	267	100	45	55	1.7	
	旧中	839	100	33	67	1.7	385	100	36	64	1.5	454	100	29	71	1.9	
	高等学校その他	548	100	37	63	1.6	366	100	39	61	1.5	182	100	34	66	1.7	
職業別	自営農林漁業	40	100	50	50	1.4	30	100	53	47	1.1	10	100	40	60	1.6	
	非農林漁業	35	100	17	83	2.2	14	100	21	79	2.0	21	100	14	86	2.2	
	雇用者	135	100	16	84	2.1	23	100	17	83	2.2	112	100	16	84	2.1	
	家族従業者	156	100	30	70	1.8	82	100	35	65	1.6	74	100	25	75	2.0	
	無職	205	100	48	52	1.6	131	100	50	50	1.4	74	100	45	55	1.8	
末既婚別	未既婚	333	100	24	76	2.0	49	100	18	82	2.3	284	100	25	75	1.9	
	既婚	81	100	36	64	1.8	51	100	33	67	1.6	30	100	40	60	1.9	
	離婚	103	100	37	63	1.5	62	100	40	60	1.5	41	100	32	68	1.5	
	再婚	920	100	44	56	1.4	601	100	41	59	1.4	319	100	49	51	1.5	
	不明	220	100	70	30	1.1	115	100	67	33	1.1	105	100	73	27	1.2	
未既婚別	未既婚	1,696	100	35	65	1.6	882	100	36	64	1.5	814	100	30	70	1.9	
	既婚	17	100	68	32	2.0	2	100	100	—	—	15	100	7	93	2.5	

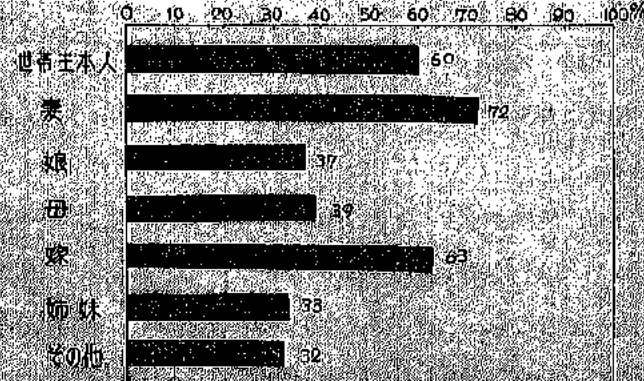
第1図 団体加入者の続柄別構成

(団体加入者総数=100%)



第2図 続柄別団体加入率

(各続柄該当者総数=100%)



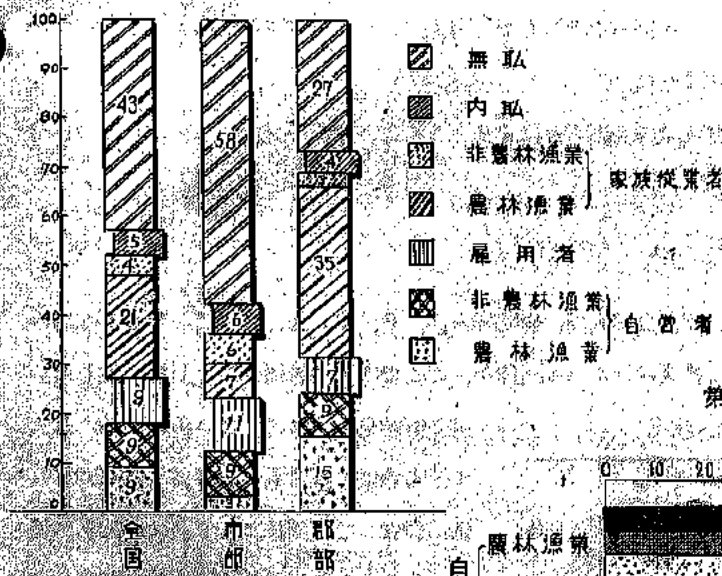
次に年齢別にみると、40才台のものの加入率が最高で、81%、次が30才台、50才台の順となっており、20才台と60才以上はずつと少い。この傾向は市部、郡部ともに変わらないが、郡部では60才以上の層に加入者がとくに少い(23%)。

学歴別では、市部でも郡部でも、学歴の中間層に加入者が多く学歴最高の層と最低の層に少い傾向がみられる。とくに市部では高学歴(旧専門学校以上)のもの、郡部では小学卒以下のものの加入率が低い。一方、加入率のもつとも高い層は、“その他”の学歴のもので、実数は少ないながら比率では市部79%、郡部86%と、他の層を引離していることは注目される。

(註) “その他”は青年学校、看護婦、助産婦養成所、裁縫学校等で、技術、職業訓練が多い。

第3図 団体加入者の職業別構成

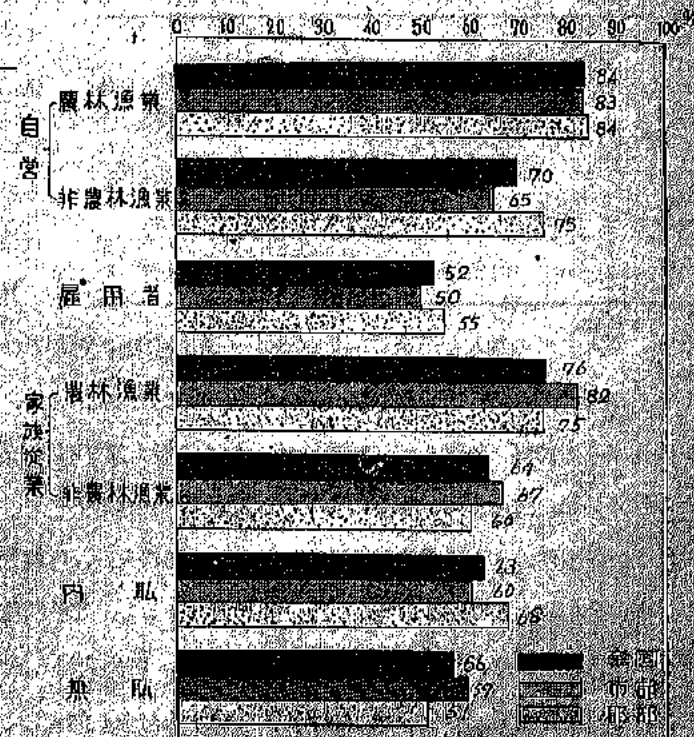
(単位% 団体加入者総数=100%)



第4図 職業別団体加入率

(単位%)

次に、職業別でみると、団体加入者全体を100%としてみるならば、“無職”のものが43%を占めていてもつとも多く、次いで家族従業の農林漁業従事者が21%となっているが(第3図参照)、各職業階層の中での加入者の割合をみると、加入率のもつとも高いのは、自営及び家族従業における農林漁業従事者(自営84%、家族従業76%、平均79%)で、とくに自営の場合は加入率が高い。一方、加入率が比較的低いのは、雇用者と無



業のもので、とくに市部では雇用者、郡部では無職のものをもっとも低く、いずれも50%程度である。

(第4図参照)

未婚、既婚別では、既婚者の加入率65%（市部64%、郡部70%）に対し、未婚者は30%（市部33%、郡部27%）で少い。

2. 団体種類別加入状況

団体一般への婦人の加入状況は以上のとおりであるが、次にこれをよりくわしく、団体の種類別に検討しよう。ここではまず、団体を三つのグループに分類した。すなわち、前記質問のa項、b項、c項のそれぞれに該当する団体を各々一つのグループとして、“地域団体”、“有志団体”、“職域・職能団体”と仮に名付け、この三つのグループに個々の団体を分類した。調査によつて把握されたほとんどすべての団体がこれらのグループのどれかに分類された。

以下では、これらのグループごとに加入状況を明らかにするとともに、グループ内の各種団体についても、できるだけ検討してみようと思う。

(1) 地域団体

婦人が所属する団体のうち、婦人会、町内会婦人部、農協婦人部、P・T・A、青年団などのように、地域的なつながりをもつた人々によつて構成されている団体を、ここでは“地域団体”として一括した。

第9表 地域団体への加入状況

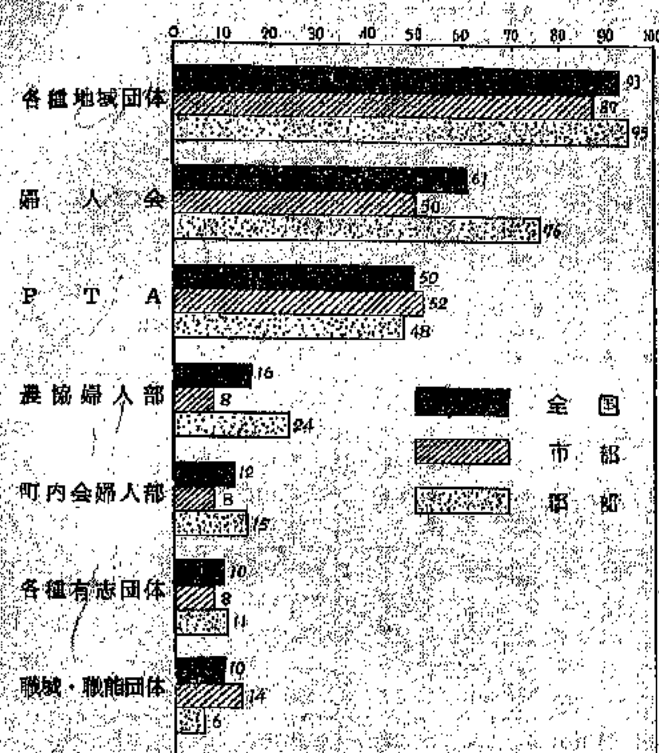
	総数		入っていない		入っている			
	人数	%	人数	%	1団体	2団体	3団体	4団体
計	1,983	100	43	57	32	18	6	1
市部	999	100	47	53	38	16	4	0
郡部	934	100	37	63	30	21	9	2

すると、婦人会への加入者が全対象者の88%——市部90%、郡部97%——で一番多い。（これは団体加入者全体の61%にあたる。第5図参照）次いで多いのはP・T・Aで、市部、郡部ともに全対象者の32%、以下農協婦人部10%（市部5%、郡部15%）、町内会婦人部7%（市部5%、郡部10%）の順となっており、その他青年団、生活協同組合等に若干の加入者がみられる。

以上の諸団体のうち代表的な地域団体とみられる婦人会、町内会婦人部、及び農協婦人部について、どんな人が多く加入しているかをみよう。第10表によると、どの団体でも、“妻”と“娘”（農協ではとくに嫁）に加入者が多く、“母”や“娘”は2割。但し、町内会婦人部だけは“世帯主本人”の加入率も高い。また、どの団体でも、年齢層では60才台から50才台が多く加入しており、20才台、30才台は少ないが町内

第5図 各種団体加入者の団体加入者全体に対する割合

（団体加入者総数=100%）



(2) 有志団体

前記質問のbでは地域に関係なく特定の目的をもつて集まっている団体（たとえば、主婦連、婦人有志者同盟、婦風会、友の会、政界婦人部、未亡人団体のような団体）に入っているかどうかをきいたのであるが、どの種の団体をともに“有志団体”として一括した。

第11表によれば、この種の団体に参加するものの全対象者に対する割合は、市部5%、郡部7%である。同一人が二つ以上の有志団体に加入しているという例は極めて少い。

どのような団体に多く入っているかをみると、市部でも郡部でも、未亡人団体（ないしは遺族団体）と宗教団体（仏教、キリスト教会関係、新興宗教等）がもっとも多く、とくに郡部では、未亡人団体が全体の約50%、宗教団体（とくに仏教関係）が30%を占めており、その他のものは極めて少ない。

次にこれらの“有志団体”へはどんな人が多く加入しているかといえ、まず総体では“世帯主本人”の加入率が最高で、とくに郡部では50%近くが加入しており、次いで、市部では“嫁”と“母”、郡部では“母”の加入率が高い。“妻”は市部、郡部ともに加入者が少く、“娘”はもっとも少ない。年齢別では40才以上に加入者が多く、30才台以下ではずつと少くなっている。職業別にみると、自営業者に加入者が多く、雇用者、家族従業者に少い。自営業者のうち、農林漁業従事者はとくに加入率が高いが、町内農林漁業従事者でも家族従業者の場合は加入率が高くない。学歴別では、とくに差はみられない。（第10表）

も婦人会は40才台、50才台が多く、もつとも年齢層が高い。学歴別では、婦人会と農協では、“その他”の学歴のものの加入率がとくに高い（婦人会60%、農協23%）が、そのほかの学歴層では、各団体を通して、高小・新中卒層にもっとも加入者が多く、学歴の上昇に従つて加入の割合が少くなっている。しかし、町内会婦人部だけは、学歴層の間の差は比較的小さい。職業別では、婦人会は農林漁業従事者（自営及び家族従業）の加入率が高く（60~70%）、他の有業者や無職者とのひらきが大きい。町内会婦人部ではそのようなことはない。農協婦人部には、農林漁業従事者のうち自営では82%、家族従業者では30%が加入している。

第10表 団体別加入状況 (性別別、年齢別、学歴別、職業別)

団体別	加入者数	計						市						都					
		実数		%		実数		%		実数		%		実数		%		実数	
		数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
全 人	1,400	100	38	7	10	6	6	995	100	30	5	5	5	904	100	47	10	16	4
男	1,271	100	45	8	11	4	4	677	100	35	6	6	2	593	100	57	11	18	4
女	223	100	13	2	5	1	1	112	100	7	2	1	2	111	100	19	3	8	1
新 母	145	100	28	4	3	12	5	68	100	29	2	3	10	77	100	27	1	4	3
婦 婦	84	100	46	10	23	8	1	21	100	43	—	19	14	5	100	48	13	24	6
別 姉 妹	30	100	10	—	—	3	17	17	100	12	—	—	—	29	100	8	—	8	—
そ の 他	41	100	12	2	5	2	17	22	100	14	—	5	5	23	100	11	5	5	11
年 20 才 台	462	100	47	5	4	1	10	242	100	12	5	0	0	220	100	22	6	8	2
30 才 台	531	100	44	8	13	3	6	279	100	34	4	6	3	252	100	56	12	20	4
40 才 台	423	100	52	12	15	12	8	214	100	38	7	6	10	209	100	67	17	24	3
50 才 台	312	100	51	8	12	8	4	158	100	43	6	8	4	154	100	58	9	16	4
60 才 台	205	100	22	1	3	9	3	106	100	25	2	4	11	99	100	20	—	2	6
学 小 卒 以 下	471	100	39	7	10	6	8	204	100	33	3	9	4	267	100	43	9	11	7
高 小、新 中	839	100	41	10	13	6	7	385	100	31	7	5	5	454	100	50	12	20	4
旧 高 女、新 高	548	100	34	5	5	6	8	366	100	28	4	2	5	182	100	45	6	10	7
旧 高 以 上	40	100	16	5	—	5	13	30	100	7	3	—	3	7	100	20	10	—	30
そ の 他	35	100	56	6	23	20	14	14	100	50	14	14	14	21	100	67	—	29	10
職 農 林 漁 業	135	100	59	11	32	12	—	23	100	61	8	57	23	112	100	71	13	27	18
商 工 鉱 業	103	100	12	8	10	11	11	56	100	39	—	2	9	47	100	55	17	19	13
サ ー ビ ス 業	42	100	31	12	5	10	38	21	100	24	10	5	9	29	100	38	14	5	10
自 由 業	11	100	18	18	9	9	81	5	100	—	20	—	—	6	100	33	17	17	67
雇 用 者	205	100	13	5	3	5	33	131	100	8	2	—	3	41	100	20	11	10	8
農 林 漁 業	333	100	60	11	30	5	0	49	100	78	2	47	8	284	100	57	12	27	5
非 農 林 漁 業	81	100	31	14	5	5	7	51	100	24	14	2	4	30	100	43	13	10	7
内 職 業	103	100	34	6	1	12	1	62	100	32	3	—	8	41	100	37	10	2	17
無 職	920	100	32	5	3	—	1	601	100	30	6	1	4	219	100	37	4	5	3

第11表 有志団体への加入状況

団体別	加入者数	入って		入っている		
		実数	%	いない	小 計	1団体 2団体 3団体
計	1,933	100	94	6	0	0
市 部	999	100	95	5	0	0
都 部	934	100	93	7	0	—

(3) 職域・職能団体

労働組合等の職域団体又は同業者組合等の職能団体に加入するものの割合は、市部9%、都部4%に

第12表 職域・職能団体への加入状況

団体別	加入者数	入って		入っている		
		実数	%	いない	小 計	1団体 2団体 3団体
計	1,933	100	94	6	0	—
市 部	999	100	91	9	0	—
都 部	934	100	96	4	0	0

市部にやや多い(第12表)。そして、市部では、職域団体(労組)がその大部分で、職能団体の加入者は少ないが、都部では、職能団体の方がむしろ多い。

職域・職能団体への加入率の高いのは、職種では“世帯主本人”と“娘”で、年齢別では、20才台がとくに高く、また、学歴は高いほどこの種の団体への加入率は高く、最高は“その他”と旧専門学校以上層である。職業別にみると、自営業者のうちサービス業と自由業は、40~80%、雇用者は33%がこの種の団体に加入している。(第10表)

(4) 重複加入

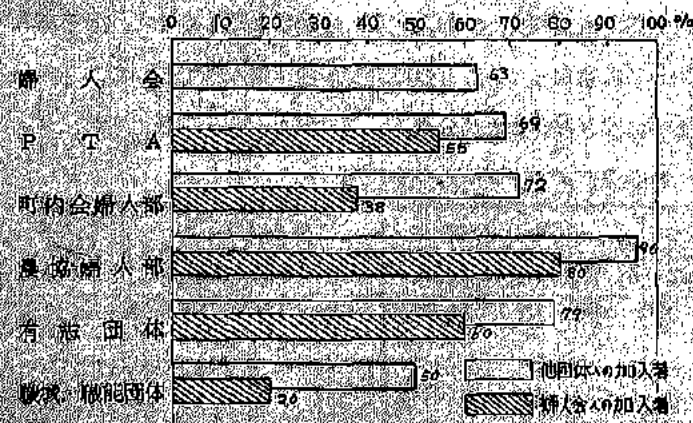
すでにみたように、団体加入者の約半数が二つ以上の団体に加入しているが(第7表参照)、団体別に

第13表 重複加入の状況

団体別	加入者数	加入者数		加入者数		加入者数		加入者数		加入者数	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
計	加入者数	100	(737)	100	(140)	100	(191)	100	(609)	100	(117)
計	他の団体に加入するもの	63		72		96		69		29	
計	婦人会に加入するもの	—		38		80		55		60	
市 部	加入者数	100	(299)	100	(49)	100	(47)	100	(314)	100	(49)
市 部	他の団体に加入するもの	61		43		94		59		73	
市 部	婦人会に加入するもの	—		12		85		44		41	
都 部	加入者数	100	(438)	100	(91)	100	(144)	100	(295)	100	(68)
都 部	他の団体に加入するもの	64		88		96		80		82	
都 部	婦人会に加入するもの	—		52		78		66		68	

第14表 重複加入の割合

(単位% 各団体加入者総数=100%)



重複加入者の割合を第13表によつてみると、会員中の60~80%が他団体に加入している場合が多い。(但し、最高は農協婦人部の96%、最低は職域・職能団体の50%である。)どの団体についても、都部は市部より重複加入の率が高い。

重複加入の組合せについては、婦人会加入者が団体加入者総数の61%を占めており(第5図参照)、しかもそのうちの63%が他団体に加入して

いるところから、婦人会とその他の団体との重複という形が最も多いと考えられるので、この図に示す

て、婦人会との重複の比率をとつてみた。第13表でみると、婦人会との重複加入の一番多いのは農協婦人部で80%、次はP、T、Aの55%（市部44%、郡部66%）である。町内会婦人部については、市部では12%、郡部では52%が婦人会に加入しており、市部と郡部の差が大きい。また、有志団体では市部で41%、郡部で68%が婦人会に入っており、職域・職能団体では、婦人会との重複は比較的少く、20%となつてゐる。（第6図参照）

8. グループへの参加状況

各種団体への婦人の加入状況について以上にとりまとめたのであるが、団体と名付けるほどのものではない小集団、いわゆるグループのたぐいは以上の集計から一応除外しており、別の設問によつてグループへの参加状況を把握したので、こゝでその結果をみておこう。

第14表 グループへの参加状況

	総 数		入つていない	入 っ て い る					
	実 数	%		小 計	1団体	2団体	3団体	4団体	5団体～
計	1,933	100	87	13	12	1	0	—	0
市 部	999	100	90	10	9	0	0	—	0
郡 部	934	100	83	17	15	2	0	—	—

第14表によれば、グループへの加入者は全対象者の13%で、市部10%、郡部17%となつており、郡部の方が加入率がやや高い。また二つ以上のグループに属しているものは少い。これらのグループは極めて多様なものだが、中でも“たのもし講”“無尽”のたぐいが、市部にも郡部にも最も多く、そのほかに市部では手芸、茶道、華道などの集り、読書会、生活向上のためのグループなどが比較的多くみられ、郡部では生活改善グループが“たのもし”に次いで多く、また念仏講などの仏教関係の集りも相当に多い。

なお、団体とグループを総合しての加入状況を第15表に示した。これで見ると、全対象者の65%が、何かの団体又はグループに属している。これを第7表（団体への加入状況）の数字と照し合せて、団体加入とグループ加入の重複関係をみると、グループに参加しているものの殆どが団体加入者であつて、グループだけに属しているものは対象者全体の2%にすぎないことが分る。

第15表 団体及びグループへの参加状況

	総 数		入って いない	入 っ て い る									1人平均加入 団体数
	実 数	%		小 計	1団体	2団体	3団体	4団体	5団体	6団体	7団体	8団体～	
計	1,933	100	35	65	61	20	9	4	1	0	0	0	1.33
市 部	999	100	37	63	34	18	9	2	—	—	0	0	1.64
郡 部	934	100	32	68	27	22	10	7	2	0	—	—	2.03

Ⅱ 組織活動への参加状況

全対象者の65%が何かの組織に属していることを、以上の調査結果から知りえたのであるが、これらの婦人たちが、どの程度実際に組織の活動に参加しているかを把握するために、役員になつてゐるかどうか、会のこととどれ位でかけるか、会からどの程度連絡があるか、の三項目について質問した。回答の結果は次のようであつた。

1. 役 員

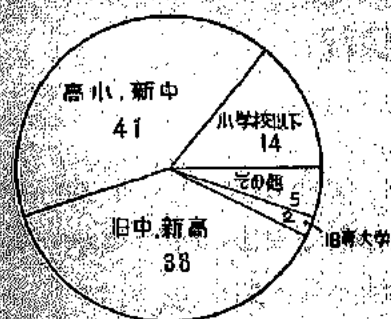
調査対象者のうち、団体又はグループに入つてゐるものに対して、“あなたは役員が世話役になつてゐますか？”と聞いたところ、結果は第16表のようであつた。すなわち、現在役についてゐるものは、団体・グループ加入者の22%である（市部21%、郡部23%）。そのうち、二つ以上の団体で役についてゐるものは3%程度で少い。

第16表 役についているか

	団 体・グループに入つてゐるもの総数		役についていない	役 について いる			
	実 数	%		計	1団体	2団体	3団体
計	1,255	100%	76%	22%	19%	3%	0%
市 部	621	100	80	21	17	3	1
郡 部	634	100	77	23	20	3	—
年 令	20才台	100	85	15	13	2	—
	30才台	100	78	22	20	2	—
	40才台	100	74	26	21	5	1
	50才台	100	77	23	19	3	1
	60才～	100	89	11	9	1	—
学 歴	小学以下	100	86	14	13	1	—
	高小・新中	100	81	19	17	3	—
	旧中・新高	100	71	29	24	4	1
	旧高・大学	100	71	29	24	5	—
別	その他	100	60	40	30	10	—

どのような人が多く役についてゐるかをみると、年令別では30才台から50才台が多い。但し、市部では30才台と40才台、郡部では40才台と50才台というように、郡部の方が多少年令が高い。学歴別では、旧高女以上の学歴の高い層（30%）と、“その他”の学歴のもの（40%）に、役についてゐるものが多い。しかし、役員全体の中での割合で見ると、高小・新中層と旧高女・新高層のものが大部分を占めてゐる（第7図参照）。職業別では、どの階層も役についてゐる割合には大差がない。また学令群の幼児のあるもの

第7図 団体役員の学歴別構成
(役員総数=100%)



とないものとは、ないものの方が役につく率は高く(あるもの17%、ないもの24%)役員全体の中でも幼児のないものが7割を占めている。

2. 会のことのでかける回数

団体やグループの加入者に対して、会のことのでどの位でかけるかをきいた。回答の結果を第17表でみると、月1、2回位でかけるものが団体加入者全体の80%で、月3回以上は10%、1回未満が40%、全くでかけないものが14%である。

次に、役についているものとついていないものの別、及び市部、郡部の別でみると、まず役についているものは、市部では約40%が月に1、2回程度でかけ、20%が月3回以上、30%が月1回未満、郡部では約50%が月1、2回、30%が月3回以上、20%が月1回未満となっている。

第17表 会のことのでかける回数

	総数	市 部				郡 部		
		計	役 についている		計	役 についている		計
			ついていない	ついていない		ついていない	ついていない	
団体加入者数	100% (1,255)	100% (621)	100% (127)	100% (494)	100% (634)	100% (144)	100% (490)	
年								
1～2回	17	17	3	20	16	5	20	
3～4回	10	10	6	11	10	5	11	
5～6回	6	4	6	4	8	8	8	
7回～	8	11	15	10	5	4	5	
月								
1～2回	80	23	43	18	37	49	34	
3～4回	6	5	12	3	7	22	8	
5～6回	2	2	7	1	1	2	0	
7～10回	1	1	1	0	1	2	—	
11～15回	0	0	1	—	1	3	—	
16回～	0	0	0	0	—	—	—	
出かけることはない	14	18	6	22	9	1	11	
不明	7	9	2	10	5	—	7	

(注) 二つ以上の団体に加入しているものについては、団体別の回数を合計した。

役についていないものは、市部では月1回以上でかけるものが約20%、月1回未満が50%、全くでかけないものが20%である。郡部では、月1回以上が約40%、1回未満が40%、全くでかけないものが10%余である。

すなわち、役についているものも、ついていないものも、市部より郡部の方がやや頻繁にでかけている。

これをさらに詳しくみると、まず年齢別では、20才台～40才台のものが比較的よくでかけ、50才台、60

才以上と年齢が高くなるほど、全くでかけないものがふえ(60才以上30%)、出かける回数も少くなる。

学歴別では、全くでかけないものは小学校卒以下に多く(20%)、“その他”の学歴層が一番少い(7%)。また“その他”のものは出かける回数も格段に多い(月3回以上23%)。

職業別では、農林漁業従事者(自営及び家族従業)が比較的よくでかけ、全くでかけないものも少い(自営1%、家族従業5%)。一番出かけることの少いのは、内職者と、家族従業者のうちの非農林漁業従事者である(何れも、全くでかけない21%、月3回以上2%)。

3. 会からの通知の回数

組織活動への参加状況を知る参考として、団体からの働きかけの程度をみるため、団体から連絡(通知)

第18表 会からの通知の回数

	計	市 部	郡 部
総数	100% (1,255)	100% (621)	100% (634)
年			
0回	4	5	3
1～2回	40	11	10
3～4回	9	10	9
5～6回	8	6	10
7回～	9	11	6
月			
1～2回	36	31	42
3～4回	8	9	8
5～6回	3	2	3
7～10回	1	—	2
11～15回	0	—	0
16回～	0	0	—
不明	11	15	7

(注) 二つ以上の団体に加入しているものについては、各団体からの通知回数を合計した。

をうける頻度についてきいた。回答の結果によると、団体やグループに加入しているもののうち、市部では約30%、郡部では約40%のものが月に1、2回で団体から何かの通知を受けており、市部、郡部ともに、月3回以上のものはおよそ10%、月1回未満のものは40%前後であった。(第18表)

Ⅳ 協同活動についての意識

ここでは、協同活動についての婦人の意識をみるために、団体に入つたきつかけ、団体に入らない理由、団体加入をすすめられたときの態度、婦人会の仕事のしかたについて、地域における実践への関心、の5項目について、調査の結果をとりまとめた。

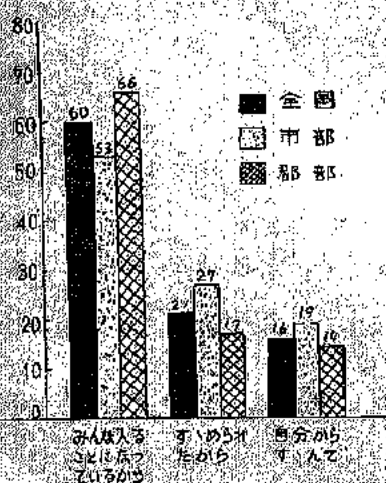
1. 団体に入つたきつかけ

地域団体と有志団体の加入者に対して、どのようなきつかけで団体に入つたかを質問した。回答の結果をみると、婦人会、町内会婦人部、農協などの地域的な団体では、“みんな入ることになっているから”

第19表 団体に入つたきつかけ

	総 数		みんな入ることになっているから	すすめられたから	自分からすすんで	その他	不明
	実 数	%					
婦 人 会	737	100%	60%	21%	16%	2%	0%
町内会婦人部	140	100	73	11	16	—	—
農協婦人部	191	100	64	13	8	13	2
有志団体	117	100	—	42	34	5	19

第8図 婦人会に入つたきつかけ



というものが60～70%で過半数を占め、“自分からすすんで”入つたというものは、8～16%で少く、ほかに“すすめられたから”というものが10～20%ある。婦人会について市部、郡部別にみると、“みんな入ることになっているから”というものは郡部に多く(市部53%、郡部66%)、“自分からすすんで”というものは市部にやや多い(市部19%、郡部14%) (第8図)。年令別ではほとんど差はみられないが、ただ“すすめられたから”という理由のものは、市部では高年令ほど、郡部では若いものほど多くなっている。また、有志団体の加入者の回答でも、“自分からすすんで”というものより“すすめられたから”というもののほうがむしろ多い(第19表)。

2. 団体に入らない理由

どの団体にも入っていないものが、市部に40%、郡部に84%あるが、これらの人々に対して、なぜ入ら

ないかを聞いたところ、回答の結果は第20表のようであつた。すなわち、“ひまがない”というものが市部でも郡部でも最も多く、団体に入っていないものの全体の30%を占め、次いで、市部では“すすめられたことがない”というものが27%、郡部では“すすめられたことがない”ものと“年をとつたから”というものが、ともに14%となつている。

第20表 団体に入らない理由 —どの団体にも入っていない人—

		団体に入っていない人の数	ひまがない	すすめられたことがない	社会的関心がうすい	この辺に団体がない	年をとつたから	家族の一人が入っていないから	今の婦人会のあり方が好きでない	その他	無回答
計		(716) 100%	30%	21%	14%	11%	10%	5%	3%	20%	3%
市郡別	市 部	(396) 100	34	27	16	12	7	2	3	19	2
	郡 部	(320) 100	25	14	12	9	14	10	3	21	3
年令別	20才台	(272)100	31	28	9	15	—	4	2	25	2
	30才台	(121)100	42	26	15	11	—	4	3	13	3
	40才台	(80)100	49	18	20	13	1	1	3	20	1
	50才台	(190)100	27	15	11	7	10	10	6	22	3
	60才～	(143)100	8	9	21	2	42	7	3	15	4
学歴別	小学以下	(213)100	25	12	20	1	25	7	4	15	3
	高小・新中	(273)100	28	23	12	13	6	3	2	22	2
	旧中・新高	(204)100	37	26	11	16	1	5	2	24	3
	旧専・大学	(20)100	45	40	15	15	5	5	25	—	—
	その他	(6)100	—	—	—	17	—	33	17	50	—

(註) 二つ以上の理由をのべたものがあるので各項目の計は100%をこえる。

年令別、学歴別および学令前の幼児の有無別でみると、60才以上の年令層を除くどの階層でも、“ひまがない”というものが一番多いが、30才台、40才台のものと幼児のあるものに多く、また学歴が高いほど、この理由をのべるものが多い。60才以上では、“年をとつたから”というものがもつとも多い(42%)。また、小学卒以下のものにもこの理由のものが多い。“この辺に団体がないから”というものや“すすめられたことがない”というものは若いものほど多い。“今の婦人会のあり方が好きでない”というものは、全体としては3%で少いが、旧専大学以上と“その他”の学歴層では、それぞれ25%と17%がそのように答えており、それに当る実数は少いがこの比率は一応注目される。

3. 団体へ加入をすすめられたときの態度(団体加入の自主性)

問 あなたが気がすすまないのに会に入ることをすすめられているとします。

- もしあなたの親しい人から入るようにすすめられたらどうしますか?
- もし家の人から入るようにすすめられたらどうしますか?
- 名前だけでも入って下さいと頼まれたらどうしますか?

上の質問に対する回答の結果をまず“親しい人”からすすめられた場合についてみると、“はい”というものは全体の26%、“はいらない”というものは61%である。これに対して、“家の人”からすすめられた場合は、“はい”が34%、“はいらない”が58%となつていて、“親しい人”からの場合よりす

すめに従う率が高い。また、“名前だけでも”と頼まれた場合は、“はい”31%、“はいらない”58%で、“親しい人”と“家の人”との中間である。市部、郡部別では、どの場合も“はい”と答えたものは郡部に多く、市部との間に10%内外のひらきがみられる（第9図）。

階層別でくわしくみるとまず年齢別では、どの場合も30才台、40才台のものに“はい”が多く、“はいらない”といったものは高年齢と低年齢に多いが、どちらかといえば、“親しい人”や“家の人”からすすめられた場合は高年齢（とくに60才以上）に、“名前だけでも”という場合は20才台に、“はいらない”というものが多くなっているが、他の場合には、それほどはっきりした傾向はみられない。職業別にみると、どの場合も農林漁業の家族従業者は“はい”ものが一番多く、とくに“家の人から”の場合は半数以上が“はい”と答えている。同じ農林漁業でも自営の場合は“はい”ものはそれほど多くないが、しかし他の階層よりは多く、とくに“家の人から”の場合に多いことは家族従業者の場合と同様である。雇用者はどの場合も“はい”というものが一番少い。また続柄別の違いを“家の人から”の場合でみると、“嫁”は56%もが“はい”と答えており、“妻”は37%、“世帯主本人”や“母”は20%となつていて、どの階層別よりもひらきが大きい（第10図）。

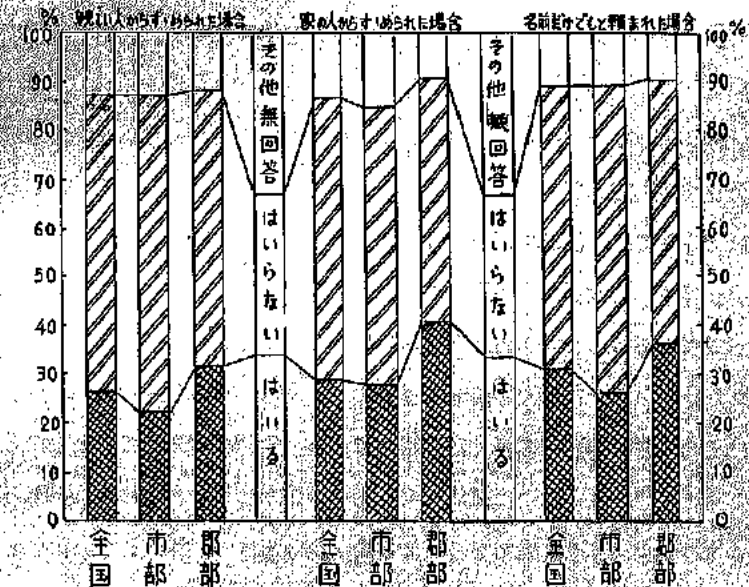
要するに、“親しい人”や“家の人”からすすめられた場合でも、“名前だけでも”といわれた場合で

第21表 団体加入をすすめられたときの態度

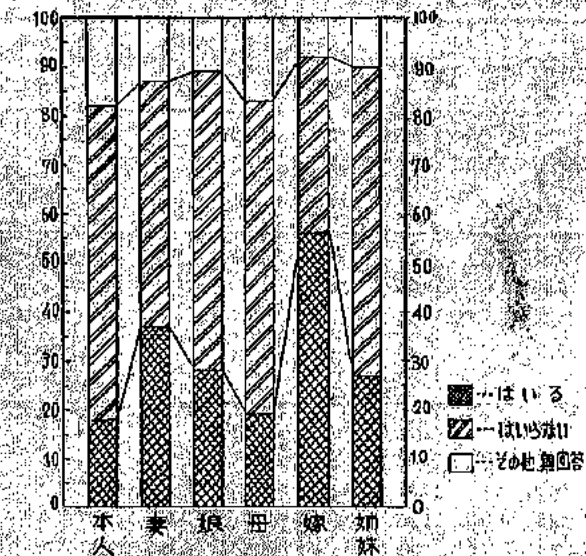
		総数	親しい人からすすめられた場合				家の人からすすめられた場合				名前だけでも頼まれた場合			
		実数	はい	はいらない	その他	無回答	はい	はいらない	その他	無回答	はい	はいらない	その他	無回答
計		1,933	26%	61%	11%	1%	34%	53%	11%	2%	31%	58%	9%	1%
市部別	市	999	22	65	11	2	26	57	13	2	26	63	10	1
	部	934	31	57	12	1	41	50	8	2	36	54	9	2
年齢別	20才台	452	27	63	10	0	35	53	10	1	26	64	9	1
	30才台	531	29	58	12	1	39	47	12	2	35	55	9	1
	40才台	423	30	59	10	2	37	52	8	3	34	57	9	1
	50才台	312	23	63	12	1	27	59	12	2	31	59	9	1
	60才～	205	15	69	14	2	20	65	14	2	29	67	11	3
学歴別	小学校以下	471	23	65	11	1	31	56	11	2	35	58	9	1
	高小・初中	839	29	59	11	1	39	50	10	2	32	57	10	1
	旧中・新高	548	25	62	12	1	30	55	12	2	27	63	9	1
	旧高・大学	40	20	63	15	3	26	58	15	3	13	75	13	—
	その他	35	25	66	14	—	34	54	11	—	31	60	6	3
職業別	自営	135	25	64	10	—	49	47	3	1	41	54	4	1
	農林漁業	155	24	61	13	1	47	57	16	2	32	58	10	—
	非農林漁業	205	19	72	6	1	19	70	8	2	24	70	6	1
	雇用	333	43	45	12	1	54	38	10	1	48	46	10	—
	農林漁業	81	22	61	16	1	33	54	11	1	26	63	10	—
続柄別	内職	103	25	63	11	1	37	53	11	1	31	57	9	2
	無職	920	23	64	11	1	27	55	19	2	25	61	10	2

も、自分の意に反して“はい”ものは30台、40台のもの、学歴の高くないもの、農林漁業に従事するものに多く、また上の三つの場合をくわべると、“家の人”からのすすめに従うものもつと多い。とりわけ農林漁業の家族従業者や“嫁”にその傾向が強い。

第9図 団体加入をすすめられたときの態度



第10図 家の人から団体加入をすすめられたときの態度（続柄別）



4. 婦人団体での仕事のしかたについて（会員としての役割意識）

問 ところに二つの婦人団体があります。

甲の団体では、会員の一人一人が団体の仕事を何かうけもつので、この団体にはいると、団体の仕事のために多少時間をとられるということです。

その団体では、団体の仕事はおもに役員がするので、ただの会員は団体の仕事のために時間をとられるようなことはほとんどありません。

あなたは婦人団体の仕事のやり方として、どちらがよいと思いますか？

この問に対する回答の結果は、“一人一人がする”のに賛成のものが全体の約50%、“役員がする”のに賛成のものが26%、“一がいに出来ない”11%、“わからない”13%で、市部と郡部ではほとんど変わらない。

年齢別にみると、若いものほど“一人一人の方がよい”というものが多い(20才台62%、60才以上21%)。しかし“役員がする”方に賛成のものが高年齢に多く多いわけではなく、むしろ“分らない”というものが高年齢ほどふえており、60才以上では半数近くを占めている。学歴別では、学歴の高いほど“一人一人”に賛成が多く、“役員がする”に賛成のものが少くなっている。しかし旧専以上層では“一がいに出来ない”が23%もある。また“わからない”は学歴のひくいものほど目立つて多い。職業別では大きな違いはみられないが、“一人一人”が一番多いのは雇用者(61%)、一番少いのは自営者(43%)で、“役員”の方はその反対に自営者に多く、雇用者に少い。団体に加入しているものとしていないものでは、加入しているものは“一人一人”に賛成のものも“役員”に賛成のものも、どちらも加入していないものより多い。つまりいずれにせよ意見をのべたものが多いわけで、加入していないものは“分らない”といったものが24%もある(第22表)。

第22表 婦人団体の仕事のしかたについて

		総 数		一人一人がす るのに賛成	役員がするの に賛成	いちがいにい えない	わからない
		実 数	%				
計		1,983	100%	49%	26%	11%	13%
市 郡 別	市 部	999	100	49	25	11	15
	郡 部	984	100	50	28	11	11
年 令 別	20 才 台	462	100	62	17	18	3
	30 才 台	531	100	53	29	12	6
	40 才 台	423	100	50	29	10	11
	50 才 台	312	100	41	30	11	18
	60 才 以上	205	100	21	26	8	45
学 歴 別	小学以下	471	100	34	29	6	30
	高小・新中	839	100	47	29	13	11
	旧中・新高	848	100	54	20	11	5
	旧専・大学	40	100	60	15	23	2
	そ の 他	35	100	56	23	9	0
団体の加入別	加 入	1,217	100	53	28	12	7
	非 加 入	716	100	48	23	10	24

5. 地域における実践への関心

問 あなたの住んでいるこの辺で、習の困っていることなど、婦人同志が力を合せて何とかしたい

いとおぼれのことがありませんか。それはどんなことですか、具体的にいつて下さい。

この質問に対して、何が地域の問題が“ある”と答えたものは全体の25%で、市部、郡部の別では、市部20%、郡部30%となっており、郡部の方が多い。年齢別では、30台から50台のものに“ある”といった

第23表 地域の協同活動について

				総 数		何とかしたらよい と思つてゐること がある	な い	無 回 答
				実 数	%			
計				1,933	100%	25%	72%	3%
市 郡 別	市	部		999	100%	20	77	3
	郡	部		934	100	30	68	2
団 体 の 加 入 別	加	入		1,217	100	31	67	2
	非 加	入		716	100	14	82	4
年 令 別	20	才	台	462	100	23	74	3
	30	才	台	531	100	27	71	2
	40	才	台	423	100	29	68	3
	50	才	台	312	100	27	71	2
	60	才	～	205	100	13	83	6
学 歴 別	小	学	以下	471	100	20	77	3
	高	小	・新	839	100	25	73	0
	旧	中	・高	648	100	27	71	2
	旧	専	・大	40	100	28	62	10
	そ	の	他	35	100	46	54	—

(何とかしたらよいと思うことの内容)

	計	市 部	郡 部
	100% (477)	100% (197)	100% (280)
生活改善、冠婚葬祭の簡素化	14	4	22
婦人の教養を高めるための集りや話し合い	12	11	12
子供の遊び場及び託児施設の設置	9	13	7
町の清掃や、環境衛生の向上	9	13	6
生活困難者の救済、養老院への援助等	8	13	4
道路の整備、水はけ、下水等のこと	8	15	4
水道の設置井戸モータの協同敷設	5	3	6
婦人が協力して、身近な問題を相談、解決したい (農業期の協同炊事等を含む)	4	4	4
子供のしつけ、教育、及び青年男女の不良化防止	4	4	3
有意義な講習会(料理、あみもの)の開催	4	4	4
組織の設立及び育成強化	3	1	6
喫煙者、悪習慣の打破	2	1	0
内職の普及	2	1	4
購買組合を作り品物を安く購入したり商店に良い品を安く売るよう要 望する	2	3	0
たのもし餅、積立貯金などの助行	1	—	2
防火、防犯訓練の実施	1	2	—
そ の 他	13	12	15

(注) 一人で二つ以上答えたものがあるため項目の計は100%をこえる。

ものが多く、学歴は高いものほど“ある”といっている。また、団体に加入しているものは、81%が“ある”といっているのに対し、加入していないものは14%で少い。

具体的な内容としては、“婦人の教養を高めるための集りをもつこと”、“町の清浄や環境衛生の改善”、“子供の遊び場や託児施設の設置”などが、市部、郡部を通じて多くみられ、そのほか市部では“道路の整備、水はけ、下水などの問題”“生活困窮者の救済”等、郡部では“生活改善、冠婚葬祭の簡素化”をあげたものがとくに多かった。

0. 婦人週間について

問 あなたは婦人週間というものがあつたことを御存知ですか？ どうして知りましたか？

この調査は、婦人週間のテーマをとりあつた関係から週間準備期間中に行われたので、この機会に“婦人週間”の普及状況を把握することと併せて、それと団体活動との関係をみる意味から、全対象者に上記の質問をかけてみた。回答の結果では、婦人週間を“知っている”ものは全体の46%で、市部、郡部別にみると、市部では“知っている”ものと“知らない”ものがほぼ半々、郡部では“知っている”40%、“知らない”60%の割合である。そして、年齢は若いほど、学歴は高いほど“知っている”ものが多く、又団体に加入しているものは加入していないものよりよく知っている。職業別では、雇用者は53%が知っていて一番多く、自営者（非農林漁業）は39%で一番少いという程度で、階層間のひらきは少い。

また、婦人週間を知つた経路については、“新聞”や“ラジオ”と答えたものが、市部、郡部を通じて最も多く（新聞56%、ラジオ51%）婦人会、青年団、労組等の組織を通じて知つたというものがこれに次

第24表 婦人週間を知っているか

		総 数		知っている	知らない	無 回 答
		実 数	%			
計		1,933	100%	46%	54%	1%
市 部	市	999	100	49	50	1
	郡	934	100	42	58	0
団 体	加 入	1,217	100	51	49	0
	非 加 入	716	100	37	62	1
年 令	20 才 台	462	100	61	39	—
	30 才 台	531	100	52	48	0
	40 才 台	423	100	45	55	0
	50 才 台	312	100	34	65	1
	60 才 以 上	205	100	15	84	1
学 歴	小 学 以 下	471	100	17	82	1
	高 小・新 中	899	100	46	54	1
	旧 中・新 高	548	100	66	33	0
	旧 専・大 学	40	100	75	25	—
	そ の 他	35	100	63	37	—

ぎ、市部で11%、郡部で20%となっている（第25表）。

第25表 婦人週間を知つた経路

	婦人週間を知つ ている者の総数		新聞	ラジオ	テレビ	雑誌	婦人会 青年団 労 組	他人及び 家の人か ら	ポスター ビラパン フレット	その他	不 明
	実数	%									
計	881	100%	56%	51%	1%	4%	15%	6%	2%	2%	1%
市 部	491	100	59	53	2	4	11	5	3	3	2
郡 部	390	100	53	50	0	4	20	7	1	1	0

(注) 二つ以上をあげたものがあるため項目の計は100%をこえる。

調査地点表

調査 番号	調査地点名	調査 対象 人数	調査 番号	調査地点名	調査 対象 人数
1	北海道札幌市	40	26	静岡県駿東郡清水村	40
2	〃 石狩支庁千歳町	〃	27	愛知県名古屋市昭和区	〃
3	〃 留萌支庁小平村	〃	28	〃 江南市	〃
4	岩手県大船渡市	〃	29	三重県鈴鹿市	〃
5	宮城県栗田郡村田町	〃	30	京都府京都市北区	〃
6	秋田県山本郡鳳凰村	〃	31	〃 与謝郡野田川町	〃
7	山形県東田川郡立川町	〃	32	大阪府大阪市城東区	〃
8	福島県石川郡平田村	〃	33	〃 貝塚市	〃
9	茨城県行方郡麻生町	〃	34	兵庫県神戸市長田区	〃
10	栃木県下都賀郡静和村	〃	35	〃 小野市	〃
11	群馬県利根郡糸之瀬村	〃	36	和歌山県和歌山市	〃
12	埼玉県入間郡高萩村	〃	37	鳥取県松江市	〃
13	千葉県柏市	〃	38	岡山県赤松郡熊山町	〃
14	東京都新宿区	〃	39	広島県安芸郡備後町	〃
15	〃 目黒区	〃	40	山口県下松市	〃
16	〃 中野区	〃	41	香川県高松市	〃
17	〃 練馬区	〃	42	愛媛県越智郡大西町	〃
18	〃 北多摩郡国分寺町	〃	43	福岡県福岡市	〃
19	神奈川県川崎市	〃	44	〃 山田市	〃
20	〃 相模原市	〃	45	〃 築上郡藤田町	〃
21	新潟県新潟市	〃	46	長崎県平戸市	〃
22	石川県能美郡山上村	〃	47	熊本県宇土郡三角町	〃
23	山梨県北巨摩郡双葉町	〃	48	大分県遠見郡山香町	〃
24	長野県北安曇郡北城村	〃	49	鹿児島県鹿児島市	〃
25	岐阜県益田郡下目町	〃	50	〃 出水郡東長島村	〃

協同活動についての調査

昭和33年9月10日印刷

昭和33年9月15日発行

東京都千代田区大手町一ノ七番地

発行者 労働省婦人少年局

東京都中央区銀座1の5

印刷者 信毎書籍印刷株式会社

